

小学校外国語活動・外国語科において、
進んでコミュニケーション活動に取り組み、伝える喜びを
実感できる児童の育成
— 遠隔交流学习パッケージの作成と活用を通して —

長期研修員 北爪 秀明

《研究の概要》

本研究は、小学校外国語活動・外国語科の学習指導において、ICTの特性や強みを生かし、多様な人と交流する場面を生み出すことで、進んでコミュニケーション活動に取り組み、伝える喜びを実感できる児童の育成を目指したものである。

離れた学校の児童同士や、児童と英語話者による交流活動を行うための方法や手順を示した遠隔交流学习パッケージを作成した。これを活用することで、教師が見通しをもって遠隔交流学习の準備を進めることができ、児童が魅力のある目的・場面・状況のもと、伝える必要感や意欲をもって進んでコミュニケーション活動に取り組み、自分の気持ちや考えを伝える喜びを実感することに有効であることを明らかにした。

キーワード 【外国語教育 遠隔交流学习 ICT活用 目的・場面・状況 伝える喜び】

群馬県総合教育センター

分類記号：G09-01 令和4年度 279集

I 主題設定の理由

「各教科等の指導におけるICTの効果的な活用について」（令和2年9月）では、「学習指導要領に基づき、資質・能力の三つの柱をバランスよく育成するため、子供や学校等の実態に応じ、各教科等の特質や学習過程を踏まえて、教材・教具や学習ツールの一つとしてICTを積極的に活用し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善につなげることが重要」と示されている。教科の特質等を踏まえて三つの資質・能力を児童にバランスよく育成していくことが求められているが、その実現のためにはICTを効果的に活用した学習活動の充実を図っていくことが必要であると言える。

GIGAスクール構想のもと、1人1台端末が配備され、令和3年度には小学校でもICT教育が本格的に始まった。「GIGAスクール構想のもとでの小学校外国語活動・外国語科の指導について」（令和3年6月）では、外国語指導においてICTを活用する際のポイントを三点示している。一点目は、児童の言語活動の更なる充実と指導・評価の効率化を図ることをねらいとした「言語活動・練習」での活用、二点目は、遠隔地・海外の人とのコミュニケーションと災害などの非常時への対応をねらいとした「交流・遠隔授業」での活用、三点目は、児童の興味・関心、学習の質を高めることをねらいとした「コンテンツ・授業運営」での活用である。こうしたことを踏まえ、外国語指導において、様々な場面でICTの特性や強みを指導に生かし、活用することで、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善につなげることができると考える。

令和元年度に文部科学省が実施した「外国語の指導におけるICTの活用状況」では、「教師がデジタル教材等を活用した授業」を行った小学校は99.1%と、ほぼ全ての小学校の授業においてデジタル教材が活用されていることが分かった。しかし、児童がパソコン等を用いて発表や話すことにおけるやり取りをする活動を行っているとは回答した小学校は41.4%、ICTを活用して児童が遠隔地の児童生徒等と英語で話をして交流する活動を行った小学校はわずか3.0%であった。これらの調査結果から授業運営等でICTを活用する小学校の割合は高いものの、言語活動や交流活動においてICTを活用している小学校の割合はまだ低いことが分かった。その主な理由としては、「言語活動や交流活動において、ICTを効果的に活用するノウハウがない」「ICTを活用するメリットはあると思うが、準備などが大変そう」などが挙げられる。そこで、言語活動や交流活動におけるICT活用の有効性を明らかにするとともに、その活用法を広めていく必要性があると考えられる。

研究協力校（以下、協力校）3校の全校児童数は、A校が179名、B校が68名、C校が42名である。児童数は年々減少し、10人に満たない学級もある。そのため、児童は限られた相手といつも同じような環境で言語活動を行っている。自分のことを伝えたり、友達のことを聞いたりする活動では、既によく知っている児童同士でやり取りするため、伝え合う必要感をなかなかもつことができない状況が見られる。コミュニケーションを行う相手や状況が常に同じであることは、学習や言語活動に対する意欲低下の一因となり、小規模校における外国語学習において喫緊の課題である。そこで、児童が多様な他者と交流し、必要感をもって学習に取り組むことができる新たな言語活動の場面や状況を、ICTを活用して創出する。オンラインでの新たな交流の場が生み出されることで、児童は進んで自分の考えや気持ちを伝え合い、伝える喜びを実感することができると思われる。

以上のことから、遠隔交流学習パッケージを作成し、活用することで、ICTを活用した遠隔交流活動の場が生まれ、進んでコミュニケーション活動に取り組み、伝える喜びを実感できる児童の育成につながると考え、本研究の主題を設定した。

II 研究のねらい

小学校外国語活動・外国語科において、進んでコミュニケーション活動に取り組み、伝える喜びを実感することができる児童を育成するために、遠隔交流学習パッケージの作成と活用の有効性を明らかにする。

Ⅲ 研究の内容

1 基本的な考え方

(1) 「進んでコミュニケーション活動に取り組む」とは

児童が単元の課題を把握し、その課題解決に向け、主体的に自分の考えや気持ちを伝え合う言語活動に取り組むことである。児童が必要感や意欲をもって活動に取り組むことができるようにするために、コミュニケーションを行う目的・場面・状況などを明確にした言語活動を設定することが重要であると考える。

(2) 「伝える喜びを実感できる」とは

英語を使って相手に自分のことを理解されたり、相手のことを理解したりすることができた達成感や楽しさを児童が感じ取ることである。そのために、「言語活動の目的や相手が、本当に伝えたい設定になっているか」「英単語や基本表現などを活用し、自信をもって発話することができているか」などの視点を重視した授業づくりが重要であると考えられる。

(3) 「遠隔交流学习」とは

1人1台端末等を使い、離れた学校の児童同士や、児童と英語話者をオンラインでつなぎ、自分の考えや気持ちなどを伝え合う学習方法である。本研究では、協力校A校の4年生が他校のALTとオンラインでつながり、オリジナルパフェについて発表したり、やり取りを通してオリジナルピザを作ったりする活動を行う。また、研究協力校3校の6年生同士がオンラインでつながり、オリジナルフードについて伝え合う遠隔交流学习を行う。

2 手立ての説明

本研究では、ICTを活用し、児童が他校の児童や他校のALTとオンラインでつながり、遠隔交流学习を行う。多様な人々との交流を通じて、多様な英語や異なる文化に触れるとともに、英語を用いて自分の気持ちや考えを伝える楽しさを児童が実感できるようにする。また、遠隔交流学习を進めるために必要な申請方法や実際に授業を行う際に活用できる単元計画の例を示すなど、初めて遠隔交流学习に取り組む教師が安心して進めることができるような遠隔交流学习パッケージを作成し、活用する。

3 教材の概要

(1) 「遠隔交流学习」について

はじめに、遠隔交流学习とはどのような学習なのか、また、そのメリットや指導のポイントなどについて示している。遠隔交流学习のメリットの一つは、多様な人とコミュニケーションが図ることができるという点である。そのため、児童にとってより魅力のある目的・場面・状況を設定することができ、児童はより意欲をもって単元の学習やコミュニケーション活動に取り組むことができる。

(2) 「活動の設定」について

まずは、単元を通して児童に身に付けさせたい資質・能力を明確にし、言語活動を設定する。例えば、「自己紹介」や「道案内」など、各単元の話題やまとめの活動に応じて、児童が必要感をもって自分の思いや考えを伝え合うことができる活動を設定する。ここでは、活動例と併せて、基本語彙や基本表現を示しているため、これらを参考にしながら、活動を設定することができる（図1）。

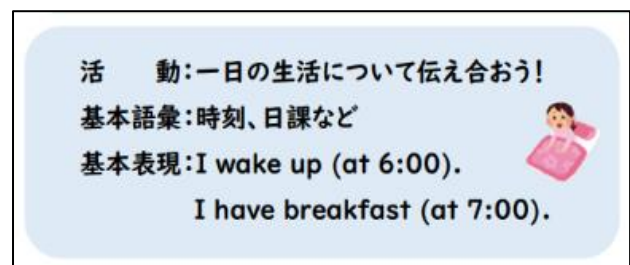


図1 活動の設定

(3) 「交流相手」について

遠隔交流学习では、他校の児童や留学生など、多様な人と交流することが可能だが、活動の目的や交

流相手の特徴などを踏まえた上で交流相手を決めることが重要である。例えば、「日本の四季や文化を伝える」という活動を設定した場合、日本のことを知っている先生や友達に伝えるよりも、日本のことについてあまりよく知らない留学生に伝えた方が、より伝える目的意識や意義が生まれ、児童が進んでコミュニケーション活動に取り組むことにつながる。ここでは、交流相手のよさと留意点を示し、交流相手の特徴が把握できるようになっている（図2）。交流相手は、「自校の児童」「他校児童や中学生」「他校のALT」「留学生」「ALTの家族や友人」について記載している。

交流相手とその特徴 (○:よさ ▲:留意点)	
留学生	☞連絡系統図③へ
○	英語を使う必然性のある目的・場面・状況を創出することができる。
○	中国やインドなど、様々な国の学生がいることから、異なる文化をもった人たちとの交流をすることができる。
○	留学生の多くは、日本の文化について興味をもっており、日本のことを知りたいと思っている。
▲	留学生は多様な国々の方がいるので、話す英語を児童が聞き取りづらい場合もある。

図2 交流相手とその特徴

(4) 「単元計画」について

ここでは、単元計画を作成するためのポイントが過程ごとに示されている（図3）。まず、つかむ過程では、教師の実演を通して児童が単元の課題を把握できるようにすることが重要である。単元の課題は、活動の目的・場面・状況をしっかりと設定し、児童と共有する。続いて、追究する過程では、音声を通じて児童が新出言語材料に十分に触れる機会を与え、慣れてきたところで、その言語材料を使った言語活動に取り組むことができるようにする。最後のまとめる過程では、単元の課題を解決する。遠隔交流学习は必ずしもまとめる過程で行わなければならないわけではない。単元途中で中間の交流を行うことにより、児童が新たな課題を発見し、次の学びにつなげていく主体的な学びの実現にも有効である。

<p>必ず言語活動を設定する。 ○A B Cは順番に指導するが、A+Bと単位時間の中で組み合わせる指導することもある。</p> <p>○Web会議システムを用いた言語活動に慣れさせる。 ○言語面と内容面における振り返りをして、遠隔交流学习における自己の課題を把握する。</p> <p>○1回目の遠隔交流学习で児童が感じた課題を改善させ、発表ややり取りに取り組みさせる。 →単元を通じて、何ができるようになったのかを児童が自覚できるようにする。</p> <p>○単元を通じての学びを自覚できるように、言語面として伝えられたことや、内容面として新たに気付いたり、感じたりしたことを振り返らせる。</p>	追究する	<p>2 単元の課題の解決に向け、単位時間ごとに追究する。</p> <p>単位時間</p> <p>◇めあてを確認する。 A 「単元の課題の解決」に向けて、新出言語材料に触れる。 B 新出言語材料を活用する言語活動に取り組む。 C まとめの活動に取り組む。</p> <p>◇振り返りを行う。 ☆オンラインで留学生に日本のよさを紹介する活動を通して、自分自身の課題に気付く。 (1回目の遠隔交流学习)</p>
	まとめる	<p>3 単元の課題を解決する。</p> <p>◇「追究する」過程で習得した知識及び技能、整理した情報、考えなどを活用し、単元の課題に示された伝え合う活動に取り組む。 ☆話す内容や順番、伝え方などを見直し、オンラインで留学生に日本のよさを紹介する。 (2回目の遠隔交流学习) ◇単元全体の学習の振り返りをする。</p>

図3 単元計画を作成するためのポイント

(5) 「申請」について

遠隔交流学习は、他校や外部機関との連絡・連携が不可欠である。校内の管理職の先生や相手校の管理職の先生、場合によっては、各教育委員会とも連携を図る必要がある。外部団体や機関との連絡・調整は、遠隔交流学习を行う際に、先生方の多くが困り感や負担感を感じる部分である。そこで、「連絡系統図」を作成した（次ページ図4）。こちらを活用することで、どのような手順で遠隔交流学习の申請を進めていけばよいのかを把握することができ、見直しをもって準備を進めることができる。連絡系統図は、「他校児童や中学生との交流」「他校ALTとの交流」「留学生との交流」の3種類あるので、交流相手に合わせて申請や準備ができるようになっている。

また、「連絡系統図」と併せて「遠隔交流学习申請書」を活用することで申請がよりスムーズにできる。「遠隔交流学习申請書」には、目的や活動内容などが記入することができるようになっており、必要事項を書き込むことで、交流の概要が明らかとなり、交流の申請や打ち合わせをする際に使えるものとなっている（次ページ図5）。

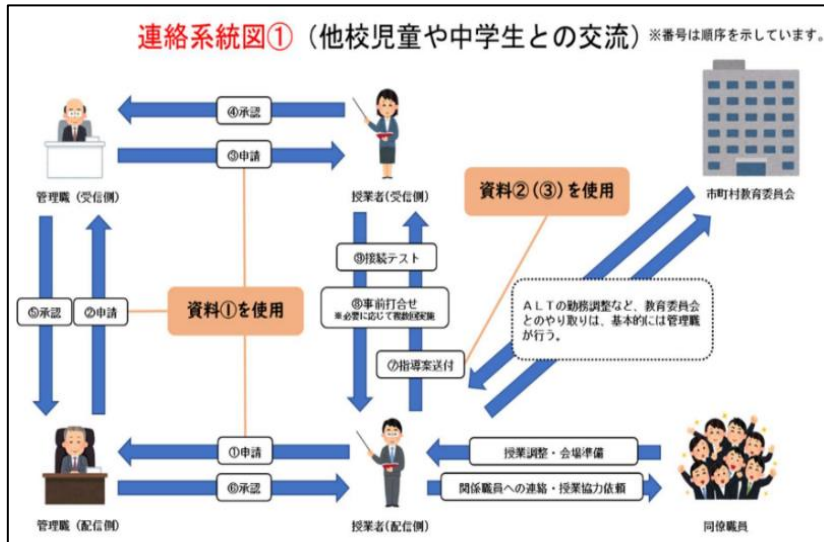


図4 連絡系統図

図5は、遠隔交流学習申請書のフォーマットです。目的、活動内容、対象学年、希望日時、使用機器、備考の各項目が記載されています。対象学年には本校と貴校(貴団体)の学年、担当者氏名、人数が記入欄としてあります。希望日時には第1希望、第2希望、第3希望の欄があり、令和の年月日()時()分()秒で記入します。使用機器には大型モニター・テレビ、ヘッドホン・イヤホン、スピーカー、Web会議システム用端末、マイク、その他がリストアップされています。

図5 遠隔交流学習申請書

(6) 「活動アイデア」について

活動アイデアには、「単元目標」「評価規準」「指導と評価の計画」「表現例」などが含まれているので、単元計画を作成する際は、活動アイデアを活用すると、より具体的に授業をイメージすることができる(図6)。活動アイデアには、5・6年生の実践を中心に、遠隔交流学習を単元の中でどのように位置付けることができるのかが例示されている。また、児童の発話例を記載しているので、遠隔交流学習の際に児童がどのような表現を用いてやり取りや発表を行うのかをイメージすることができる。

6 活動アイデア ①「自己紹介」～話すこと[発表]～

1 単元目標
相手に自分のことをよく知ってもらうために、誕生日や好きなもの、ほしいものなどについて聞いたり自分の考えや気持ちを含めて話したりすることができる。

2 評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
新学習指導要領(2020年度)	<p><知識> 月日の言い方や、I like/want ~. What ~ do you like? When is your birthday?、その答え方について理解している。</p> <p><技能> 誕生日や好きなもの、ほしいものなどについて、I like/want ~. What ~ do you like? When is your birthday?等を用いて、自分の考えや気持ちを含めて話す技能を身に付けている。</p>	<p>自分のことをよく知ってもらったり相手のことをよく知ったりするために、相手の誕生日や好きなもの、ほしいもの、将来の夢などについて、自分の考えや気持ちを含めて話している。</p>	<p>自分のことをよく知ってもらったり相手のことをよく知ったりするために、相手の誕生日や好きなもの、ほしいもの、将来の夢などについて、自分の考えや気持ちを含めて話そうとしている。</p>

3 指導と評価の計画

過程	時間	ねらい	☆ICT活用例	○評価項目(観点)
つかむ	1	●ねらい ○主な学習活動 ○単元の課題を把握し、単元の課題を解決するための見通しをもたせる。 ○課題の実践により、単元の課題を把握する。 ○試しの活動に取り組み、単元の課題解決のために何を学ぶ必要があるのかを把握する。	☆単元の課題提示 ☆新出語彙や基本表現の確認と復唱 ☆振り返りの共有	○評価項目(観点) 【指】: 指導に生かす評価 【記】: 記録に生かす評価
	2	●名前や好きなもの・こと、誕生日などのやり取りについて、おおよその内容を理解する。 ○名前や好きなもの・こと、誕生日などを表す表現に慣れ親しむ。	☆歌・チャンツ ☆新出語彙や基本表現の復唱 ☆新出語彙や基本表現の発音練習	○単元の課題を把握し、課題解決に向けて、学習を進めていこうとしている。(知)【指】
進めよう	3	●好きなものやほしいものを聞き取ったり、それらについてたずねたり答えたりすることができる。 ○好きな動物やほしいものについてたずね合う。	☆発表用資料作成 ☆発表練習の録音とフィードバック ☆振り返りの共有	○好きなものやほしいものについてたずね合っている。(知)【記】
	4	●名前や誕生日を聞き取ったり、それらについてたずねたり答えたりすることができる。 ○名前や誕生日をたずね合う。		○名前や誕生日についてたずね合っている。(知)【記】
	5	●将来の夢やできることを聞き取ったり、それらについてたずねたり答えたりすることができる。 ○将来の夢やできることについてたずね合う。		○将来の夢やできることについてたずね合っている。(知)【記】
	6	●相手への伝わりやすさを意識して、発表練習に取り組むことができる。 ○話す内容や順序などを見直ししながら、発表練習に取り組む。		○相手への伝わりやすさを意識して、話す内容や順序などを見直そうとしている。(知)【記】
まとめ	7	【遠隔交流学習】 ●自己紹介を通じて、自分のことを伝えたり、相手のことを知ったりすることができる。 ○自己紹介をしたり、相手の自己紹介を聞いたりする。	☆遠隔交流 ☆振り返りの共有	○自分の考えや気持ちなどを含めて自己紹介している。(思)【記】

図6 活動アイデア

6 活動アイデア ①「自己紹介」～話すこと[発表]～

交流相手: 留学生
目的: 留学生との交流活動を通して、英語を用いて自分の気持ちや考えを伝える楽しさを味わうとともに、他国の文化に触れる機会にする。
基本語彙: 国、月、日付、動物、野菜、果物、スポーツ、動作など
基本表現: I'm ~. I'm from ~. I (don't) like ~. I want ~. I can (can't) ~.

発表(例) ①質問の投げかけ無し

Hello.
I'm Hiromi.
Nice to meet you.
I'm from Japan.
My birthday is April 1st.
I have two dogs.
I can play volleyball.
I want to be a volleyball player.
Thank you.

発表(例) ②質問の投げかけ有り

Hello.
I'm Hiromi.
Nice to meet you.
I'm from Japan.
My birthday is April 1st.
I have two dogs.
Do you have dogs?
I can play volleyball.
Can you play volleyball?
I want to be a volleyball player.
Thank you.

コラム ICTで授業が変わる!?

距離に関係なく相互に情報の発信と受信ができるのがICTの強みの一つです。この強みを生かした遠隔教育では、学校同士をつないだ合同授業の実施や外部人材の活用、幅広い科目開設など、教師の指導や児童生徒の学習の幅を広げ、学びの質を向上させることができます。文部科学省は、遠隔教育に取り組む教師をサポートするために動画を制作・公開しているため、これらを活用して遠隔教育に取り組んでみましょう。

①初級編「始めよう遠隔教育」
- Web 会議システムの使い方
②中級編「始めよう遠隔教育」
- 実践例の紹介や遠隔教育の進め方
③上級編「始めよう遠隔教育」
- ICT 機器を活用する際の留意点

3 研究構想図

児童の実態	国・県の課題・方針	教師の願い
<ul style="list-style-type: none"> 英語で楽しくやり取りや発表をしたい。 クラスの友達だけではなく、いろいろな人たちと英語で話してみたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進したい。 言語活動や交流活動におけるICT活用の頻度が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童が伝わった喜びを実感できる授業づくりをしたい。 遠隔地との交流を図りたいが、どのように進めればよいのか分からない。

遠隔交流学習パッケージ

活動の設定

- 各活動で使用する基本語彙や基本表現を示した。

活動：中学校生活についての思いを伝えよう!

基本語彙：学校行事、部活動、動作など

基本表現：I want to join (the volleyball team).

I want to enjoy (sports day).

I'm good at (running).

I want to be (a volleyball player).

交流相手の選定

- 交流相手を選定する際の下さや留意点を記載した。

交流相手とその特徴 (○:よさ ▲:留意点)

ALT ⇄ 遠隔システム②へ

- 英語を使う必然性のある目的・場面・状況を創出することができる。
- 授業を通じて普段から児童と関わっているため、児童が理解できる英語を使ったり、児童に安心感を与えるような態度で聞いてくれたりと教育的配慮ができる。
- ▲ALTは教育委員会に在籍しているため、所属の教育委員会や学校に事前に許可を取る必要がある。

申請方法

- 交流相手ごとに、申請の流れを示した。

単元計画、活動アイデア

時間	ねらい ○主な学習活動	(例) 5年生 留学生との交流	☆ICT活用例
1	●単元の課題を把握し、単元の課題を解決するための見通しをもたせる。 ○教師の実演により、単元の課題を把握する。 ○試しの活動に取り組み、単元の課題解決のために何を学ぶ必要があるのかを把握する。	●単元の課題を把握し、単元の課題を解決するための見通しをもたせる。 ○教師の実演により、単元の課題を把握する。 ○試しの活動に取り組み、単元の課題解決のために何を学ぶ必要があるのかを把握する。	☆単元の課題提示 ☆新出語彙や基本表現の確認と復唱 ☆振り返りの共有
2	●日本の四季や文化についてのおおよその内容を理解する。 ○日本の四季や文化を伝える表現に慣れ親しむ。	●日本の四季や文化についてのおおよその内容を理解する。 ○日本の四季や文化を伝える表現に慣れ親しむ。	☆歌・チャンツ ☆新出語彙や基本表現の復唱
3	●日本の遊びや年中行事に関する語句について理解することができる。 ○日本の遊びや年中行事に関する語句について理解する。	●日本の遊びや年中行事に関する語句について理解することができる。 ○日本の遊びや年中行事に関する語句について理解する。	☆新出語彙や基本表現の発音練習 ☆発表用資料作成 ☆発表練習の録音とフィードバック
4	●好きな季節とその理由について尋ねたり答えたりすることができる。 ○好きな季節とその理由を尋ね合う。	●好きな季節とその理由について尋ねたり答えたりすることができる。 ○好きな季節とその理由を尋ね合う。	☆振り返りの共有
5	●元日にすることについて尋ねたり答えたりすることができる。 ○元日にすることについて尋ね合う。	●元日にすることについて尋ねたり答えたりすることができる。 ○元日にすることについて尋ね合う。	
6	●相手に配慮して、日本の四季や文化について紹介することができる。 ○内容や順番などを工夫しながら、日本の四季や文化について紹介する。	●相手に配慮して、日本の四季や文化について紹介することができる。 ○内容や順番などを工夫しながら、日本の四季や文化について紹介する。	
7	【遠隔交流学習】 ●日本のよさが伝わるように、自分の考えや気持ちを含めて日本の四季や文化について紹介することができる。 ○Web会議システムを使って、日本の遊びや年中行事などを紹介する。	【遠隔交流学習】 ●日本のよさが伝わるように、自分の考えや気持ちを含めて日本の四季や文化について紹介することができる。 ○Web会議システムを使って、日本の遊びや年中行事などを紹介する。	☆遠隔交流 ☆振り返りの共有

外国語教育におけるICT活用の利点

言語活動・練習	交流・遠隔授業	コンテンツ・授業運営
★個別の発音練習 Apple	★遠隔地の外部人材による授業	★単元の課題提示
★発表の録音や録画	★リモート授業	★新出語彙の確認や練習
★資料作成		★歌、チャンツ One, two...
	★遠隔交流学習	

進んでコミュニケーション活動に取り組み、伝える喜びを実感できる児童

IV 研究の計画と方法

1 授業実践の概要

対象	研究協力校 A小学校 第4学年 17名、他校ALT 4名
実践期間	令和4年10月31日～11月24日 5時間
単元名	「What do you want?」
単元の目標	他校のALTとの交流を深めるために、相手に伝わるように工夫しながらオリジナルパフェを紹介したり、オリジナルピザづくりを通してほしいものをたずねたり答えたりして伝え合う。

- 5 -

対 象	研究協力校 A小学校 第6学年 33名 B小学校 第6学年 12名 C小学校 第6学年 9名
実践期間	令和4年11月1日～11月21日 8時間
単元名	「Let's think about our food.」
単元の目標	お互いのことをよりよく知るためにオリジナルフードに入っている食材やその産地などについて聞き取ったり、自分の考えや気持ちを含めて話したりすることができる。

2 検証計画

検証の観点	検証の方法
①遠隔交流学习は、児童が進んでコミュニケーション活動に取り組み、伝える喜びを実感できることに有効であったか。	・児童へのアンケート ・振り返りカード
②遠隔交流学习を計画・実践する上で、「遠隔交流学习パッケージ」は有効であったか。	・教師へのアンケート ・教師への聞き取り

3 遠隔交流学习パッケージの活用と実践

(1) 4年生

4年生の活動は、「オリジナルパフェやピザを紹介しよう」とした。児童がオリジナルパフェやピザを作る活動を通して、欲しいものとその個数をたずねたり要求したりする表現に慣れ親しむとともに、相手に配慮しながらオリジナルパフェやピザを紹介できるようにしたいと考えた。

交流相手は、他校の小・中学校等に勤務するALTとした。ALTを交流相手とすることで、児童が英語を使う必然性のある目的・場面・状況を創出することができると考えた。また、ALTは普段から児童生徒と関わっているので、児童が理解することができる英語を使ったり、児童に安心感を与えるような態度で聞いたりする等の配慮ができることも選定の理由であった。

ALTは教育委員会に在籍しているので、所属の教育委員会と学校に事前に許可を取る必要があった。申請の際は、交流の目的や活動内容を遠隔交流学习申請書に記載し、教育委員会と所属校に伝えた。ALTには、事前に英語版の指導案と交流時に使用するデジタルデータを送付して、授業の内容や流れを把握してもらうようにした。

単元は5時間扱いとした。つかむ過程では、Web会議システムを用いて発表とやり取りをする場面を児童に提示した。はじめに、どのような果物がトッピングされているのかを伝えながらオリジナルパフェを紹介し、次にピザにトッピングしたい食材やその個数をたずねながら端末上でピザづくりをする様子を見せ、単元の課題を把握できるようにした(図7)。児童からは、「早くパフェを作って紹介してみたい」「ALTと英語で話すのが楽しみ」などの声が上がった。単元の課題は、「町内のALTに食べたいと思ってもらえるようなオリジナルパフェとピザを作って紹介しよう」とした。

追究する過程では、欲しいものをたずねたり要求したりする表現や、個数をたずねる表現を用いて、児童はオリジナルパフェやピザづくりをした。基本表現に慣れ親しませるため、基本表現の音声を端末に収め、児童が必要に応じてその音声を聞いたり、発話練習に



図7 単元の課題提示




図8 端末に収めた基本表現を確認する児童

活用したりすることができるようにした（前ページ図8）。

まとめる過程では、Web会議システムを用いて、他校のALT 4名と遠隔交流学习を行った(表1)。学級全体であいさつやウォームアップを行った後に、本時のめあてを確認した。めあてを確認する際は、教師がオリジナルパフェを紹介する様子と、やり取りを通じてオリジナルピザを作る様子を提示し、本時の活動の具体的なイメージを児童がつかめるようにした。その後、3～4人のグループに分かれ、それぞれALTと交流を行った。はじめに、児童は発表資料を提示しながら一人ずつオリジナルパフェを紹介し、パフェにはどのような果物がトッピングされているのかなどの情報をALTに伝えた。次に、児童が店員役、ALTが客役となって、「ピザにトッピングしたい具材」や「個数」などをたずねながら、オリジナルピザを作った。オリジナルパフェの発表とオリジナルピザづくりのやり取りが終わったグループは、残った時間を使って、ALTの自己紹介を聞いたり、ALTからの簡単な質問に答えたりした。

表1 4年生の遠隔交流学习

時間	○学習活動
導入	1 挨拶をする。 2 ウォームアップ ○【Let's Chant】What do you want?
展開	3 本時のめあてを確認する。 ○教師の発表とやり取りから本時のめあてを確認する。 <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>[本時のめあて] ALTに喜んでもらえるように、オリジナルパフェを紹介したり、オリジナルピザを作ったりしよう。</p> </div>
	4 発表練習をする。 ※発表は、下記の<オリジナルパフェの紹介例>と同様。 5 言語活動に取り組む。 ○オリジナルパフェを紹介する。 <div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><オリジナルパフェの紹介例> Hello. This is my original parfait. I have <u>bananas</u>, <u>peaches</u> and <u>melons</u>. Do you like my parfait? Thank you.</p> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;">   </div> <p style="text-align: center; margin-top: 10px;">○ALTのために、グループの友達と協力しながらピザづくりをする。</p> <div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><お店でのやり取り例> S I (店員): What do you want? A L T (客): I want <u>tomatoes</u>, please. S I (店員): How many? A L T (客): <u>Four</u>, please. S I (店員): Here you are. A L T (客): Thank you.</p> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;">   </div> <p style="text-align: center; margin-top: 10px;">○ALTの自己紹介を聞く。</p>
まとめ	6 振り返りをする。 ○遠隔交流学习と単元全体の振り返りをする。

(2) 6年生

6年生の活動は、「オリジナルフードを紹介しよう」とした。児童がオリジナルフードに入っている食材やその産地などについて、聞いて理解したり自分の考えや気持ちを含めて話したりすることができるようにしたいと考えた。

交流相手は、卒業後に同じ中学校に進学する他校の6年生とした。例年、6年生は中学校で一緒に生活をする仲間との友好を深めるために交流会を行っている。そこで、今回はオンライン交流会という形で3校合同の遠隔交流学习を通して、児童同士がお互いのことを知り、友好を深めるとともに、多様な意見や考えに触れることができる機会とした。

交流相手を決めた後は、「連絡系統図」を参考に、相手校への申請や授業を担当する教師との打合せを行った。また、事前の接続テストを行い、資料の提示方法なども確認した。月曜日の5時間目に交流することになったが、始業時刻が各学校で異なっていたため、交流の開始時刻を調整する必要があった。

単元は8時間扱いとした。つかむ過程では、教師の実演によりオリジナルフードを紹介する場面を児童に見せて、単元の課題「お互いのことをよりよく知るために、オリジナルフードを紹介し合おう」を共有した。

追究する過程では、新出言語材料に触れたり、新出言語材料を活用する言語活動を行ったりした。本単元で扱う基本表現の音声を端末に収め、児童が必要に応じていつでも確認ができるようにした(図10)。第2時、第3時はオリジナルフードに入っている食材や味を伝える表現などを学び、第4時は、Web会議システムを用いて3校をつなぎ、1回目の遠隔交流学习を行った(図11)。全体で本時のめあてや活動の流れなどを確認した後に、児童はグループごとに分かれ、オリジナルフードに入っている食材や味を紹介した。交流後の振り返りでは、「発表の時の声が小さかった」「英語をもっとスラスラ言えるようになりたい」「オリジナルフードについてもっと詳しい内容を知りたい」などの課題が挙げられた。第5時～第7時は、1回目の遠隔交流学习で感じた課題を改善するために、児童は食材の産地や栄養素を伝える表現を学習し、その内容を発表資料に追加した。また、声の大きさや話すスピードを調整したり、資料の内容や順序などを見直したりするなど、相手に分かりやすく伝えるための工夫をしながら発表練習に取り組んだ。

まとめる過程では、Web会議システムを用いて2回目の遠隔交流学习を行った(次ページ表2)。1回目の遠隔交流学习で伝え合った内容に加え、それぞれの食材の産地や栄養素についての情報なども伝え合った。また、資料の見やすさや発表の聞き取りやすさなど、1回目の遠隔交流学习で感じた課題を改善して発表に取り組む児童が多く見られた。

1回目の遠隔交流学习では聞き手となる児童は特にメモなどを取らずに発表を聞いていたが、2回目の遠隔交流学习ではワークシートを配布し、友達の発表内容をワークシートに記述するよう助言した。また、全員の発表が終わった後は、それぞれのグループ内で誰のオリジナルフードを食べてみたいかを投票することとした。そうすることで、発表者は「自分のオリジナルフードのことがしっかり伝わるように発表に取り組もう」という意識を、聞き手は「どのような食材が入っているのかをしっかり聞き取ろう」という意識をもって発表に臨むことができた。

オリジナルフードについての発表が終わった後は、グループ内で互いの「好きなこと」や「得意なこと」などについて既習表現を用いて質問し合い、更に相手のことを知ることができた。児童の英語の発話量は1回目より増えたが、交流自体の流れは1回目と同様にしたため、円滑に交流活動を進めること



図10 端末に収めた基本表現を確認する児童



図11 1回目の遠隔交流学习で発表する児童

ができ、児童自身も落ち着いた雰囲気での交流活動に取り組むことができた。

表2 6年生の遠隔交流学习（2回目）

時間	○学習活動
導入	<p>1 挨拶をする。 ○手を振って各校の先生や児童に挨拶をする。</p>
展開	<p>2 本時のめあてを確認する。 ○教師の発表から本時の活動の見通しをもつ。</p> <div data-bbox="225 459 1189 562" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>[本時のめあて] お互いのことをよりよく知るために、オリジナルフードを紹介しよう。</p> </div> <p>3 交流活動に取り組む。</p> <div data-bbox="225 629 957 1579" style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">＜交流活動の流れ＞</p> <p>①グループに分かれ、オリジナルフードを一人ずつ発表する。 ※資料を提示しながら発表を行う。</p> <div data-bbox="248 831 588 875" style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;"> <p>オリジナルフードの発表例</p> </div> <p>Hello. I'm Ken. I like <u>Japanese anime</u>. This is my original <u>hamburger</u>. <u>Cabbage</u>, <u>cheese</u> and <u>beef</u> are in my <u>hamburger</u>. The <u>cabbage</u> is from <u>Aichi</u>. <u>Cabbage</u> is in the <u>green</u> group. The <u>cheese</u> is from <u>Hokkaido</u>. <u>Cheese</u> is in the <u>red</u> group. The <u>beef</u> is from <u>America</u>. <u>Beef</u> is in the <u>red</u> group. It's <u>spicy</u>. Thank you.</p> <p>②グループ内で質問をし合う。</p> <div data-bbox="248 1256 336 1301" style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;"> <p>質問例</p> </div> <p>A校全員 : What <u>sport</u> do you like? B校児童①: I like <u>soccer</u>. B校児童②: I like <u>basketball</u>. B校児童③: I like <u>table tennis</u>. ③オリジナルフードの発表に対するALTのコメントを聞く。</p> </div> <div data-bbox="970 636 1433 904" style="border: 1px solid black; margin: 10px 0;"> </div> <div data-bbox="970 954 1433 1214" style="border: 1px solid black; margin: 10px 0;"> <p>The <u>cabbage</u> is from <u>Aichi</u>. <u>Cabbage</u> is in the <u>green</u> group.</p> </div> <div data-bbox="970 1256 1433 1529" style="border: 1px solid black; margin: 10px 0;"> </div>
まとめ	<p>4 振り返りをする。 ○遠隔交流学习と単元全体の振り返りをする。</p>

V 研究の結果と考察

1 遠隔交流学习は、児童が進んでコミュニケーション活動に取り組み、伝える喜びを実感できることに有効であったか。

(1) 結果

① 4年生

遠隔交流学习後に4年生の児童に対して遠隔交流学习に関するアンケートを実施した(次ページ図13)。

「英語で友達や先生とやり取りや発表をする時に、自分から進んで取り組みましたか」との質問に、「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」と回答した児童は94%であった。また、遠隔交流学習後の児童の振り返りからは、「ALTに聞こえるようにオリジナルパフェの紹介をすることができた」「分からない英語も少しあったけど、ALTにきちんと伝わるように質問をしたり、質問に答えたりすることができた」などの記述が見られた。

「英語で友達や先生に自分の考えや気持ちを伝えることができましたか」との質問に、「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」と回答した児童は94%であった。また、児童の振り返りからは、「友達にオリジナルパフェを紹介した時は、スムーズに言えなかったり戸惑ってしまったりしたけど、本番では上手に発表できた」「ALTと話したので緊張したけど、しっかり言いたいことが伝わったので楽しかった」などの記述が見られた。

「遠隔交流学習をまたやってみたいですか」との質問に、「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」と回答した児童が100%であった。その理由としては、「ALTの好きなことなどをもっと知りたいし、また話してみたいから」「今回初めてやってみて楽しかったから」「ALTに質問をしてみたいから」などが挙げられた。

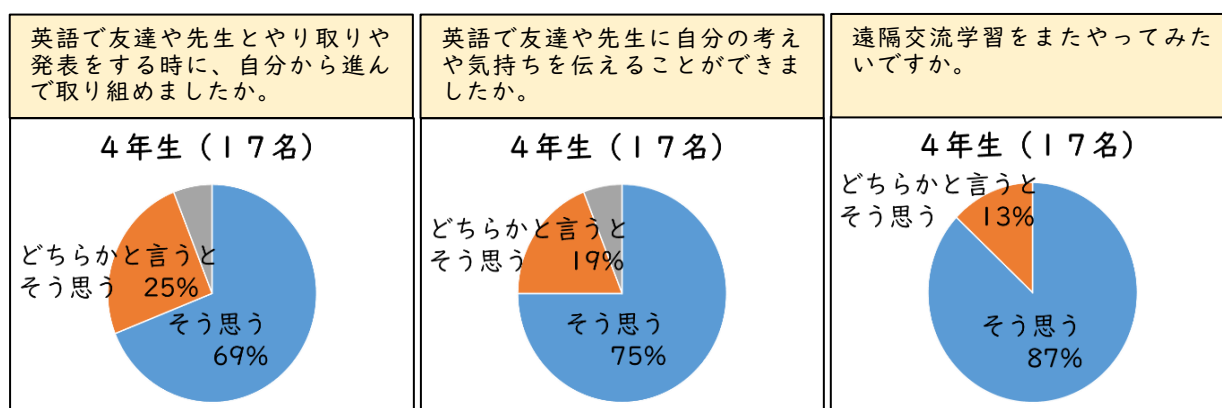


図 13 4年生アンケート結果

② 6年生

二回目の遠隔交流学習後に6年生の児童に対して遠隔交流学習に関するアンケートを実施した（次ページ図14）。「英語で友達や先生とやり取りや発表をする時に、自分から進んで取り組みましたか」との質問に、「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」と回答した児童は80%であった。また、児童の振り返りからは、「相手に伝わっているか、確かめながら発表することができた」「相手に聞こえる声で話したり、目を見ながら話したりすることができた」などの記述が見られた。一方、自分から進んで取り組みなかった児童の理由としては、「発表することが好きではないから」「自分の話す英語が正しい英語なのか不安だから」などが挙げられた。

「英語で友達や先生に自分の考えや気持ちを伝えることができましたか」との質問に、「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」と回答した児童は92%であった。また、児童の振り返りからは、「しっかり発表できるか不安だったけど、オリジナルフードの食材や産地などをスムーズに発表できた」「前回よりもスムーズに伝えることができた」などの記述が見られた。

「遠隔交流学習をまたやってみたいですか」との質問に、「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」と回答した児童は84%であった。その理由としては、「他の学校の人とも英語で話せるのは楽しいから」「他の学校の人と交流することで、色々な意見や考えを知れるから」「お互いのことを知って、仲良くなれるから」などが挙げられた。

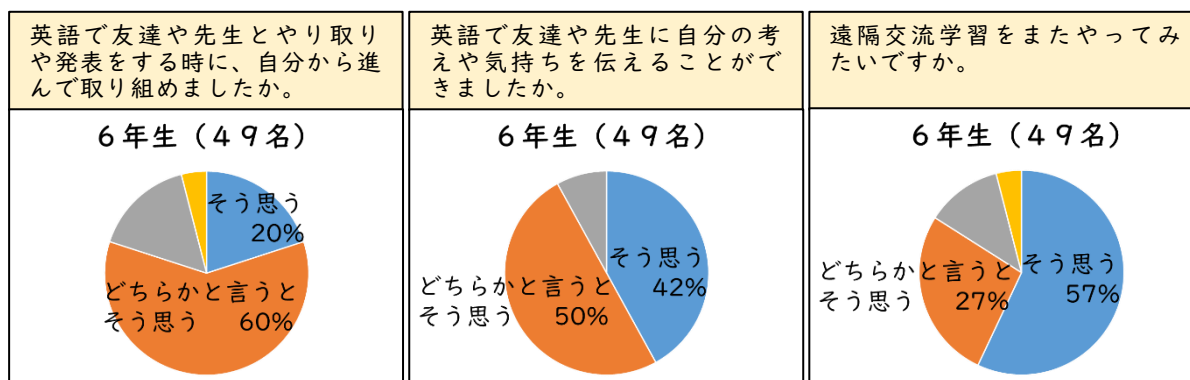


図 14 6年生アンケート結果

(2) 考察

「英語で友達や先生とやり取りや発表をする時に、自分から進んで取り組みましたか」との質問に対し、4年生は94%、6年生が80%の児童が肯定的な回答をした。また、「英語で友達や先生に自分の考えや気持ちを伝えることができましたか。」との質問に対し、4年生は94%、6年生が92%の児童が肯定的な回答をした。これらの結果は、遠隔交流学习によって新たな交流相手を設定し、目的・場面・状況のある単元の課題を設定できたことによると考える。通常の授業では、既によく知っている児童同士でやり取りをすることが多く、伝え合う必要感を児童がもちづらいことがあるが、遠隔交流学习では普段交流しない人と交流できるため、児童は「自分のことを伝えたい」「相手のことを知りたい」という気持ちを高め、進んでコミュニケーション活動に取り組むことができるようになった。「普段の授業では同じクラスの友達としか話していなかったけど、他の学校の人とも英語で話せるのは楽しい」「他の学校の人と交流することで、色々な意見や考えを知れる」との児童の振り返りにもあるように、遠隔交流学习を行うことで、自分の気持ちや考えを伝えたり、他者の意見や考えに触れたりする楽しさや喜びを児童が実感できたと考える。

「遠隔交流学习をまたやってみたいですか」との質問に対し、4年生は100%、6年生が84%の児童が肯定的な回答をした。その理由として、「お互いのことを知ることができる」「いろいろな人と交流できる」などが挙げられた。遠隔交流学习では、多様な他者と交流することが可能となり、伝える必要感や英語を使う必然性を生み出すことができたと言える。そして、こうした自分の気持ちや考えを伝え合う楽しさや喜びを実感することで、児童の外国語学習への意欲を向上させることにつながると思われる。

「遠隔交流学习をまたやってみたい」と思っている児童が多い一方で、6年生の16%の児童は否定的な回答をした。その理由として、「発表が苦手」「自分の話す英語に自信がもてない」などが挙げられた。これらの課題を解決するために、追究する過程において、基本表現に慣れ親しみ自信をもって発話できるような手立てや支援が必要である。基本表現を繰り返し練習する機会を十分に確保したり、基本表現を活用した言語活動を充実させていったりすることが必要であると考えられる。また、遠隔交流学习では初めての相手と交流することが多く、児童は不安感や緊張感を抱くことがあるので、1回だけの交流ではなく複数回交流させることで不安感や緊張感を緩和させることができると考える。

2 遠隔交流学习を計画・実践する上で、「遠隔交流学习パッケージ」は有効であったか。

(1) 結果

授業を実践・参観した教師に、「遠隔交流学习パッケージ」の活動アイデアに対する感想や意見について聞き取り調査を行った（次ページ表3）。

表3 「遠隔交流学習パッケージ」に関する聞き取り調査のまとめ

- ・遠隔交流学習の経験がないので、活動アイデアに掲載されている単元計画や児童の会話例を活用することで授業づくりがしやすくなると思った。
- ・「連絡系統図」を参考にすることで、申請機関や申請手順が把握できた。
- ・「遠隔交流学習申請書」には、交流の目的や内容、準備物などが記入できるようになっており、こちらを活用することで交流の概要が明らかとなり、申請がスムーズに進められると思う。
- ・交流相手の選定については、よさだけでなく留意点も載っていたので、誰と交流するかを決める上で役立つと感じた。
- ・遠隔交流学習では、初めての相手と交流することが多いので、インフォメーションギャップが生まれ、伝える楽しさや相手のことを知る喜びを実感できると感じた。
- ・Web会議システムの操作方法などが記載されていると、ICTに苦手意識をもっている先生でも遠隔交流学習に取り組めるものになると思った。

(2) 考察

「遠隔交流学習パッケージ」は、教師が申請や授業づくりを進める上で役立つものになることを意識して作成した。アンケートの記述から、「連絡系統図」を作成し、提示したことは、遠隔交流学習を実施する際、どの機関にどのような順序で連絡や申請を行えばよいのかを把握することができ、教師が連絡や申請を進める上で有効な手立てであると分かった。また、「遠隔交流学習申請書」を「連絡系統図」と併せて活用することで、交流の目的や内容を相手校などに伝えることができ、その後の準備を円滑に進められるようになると言える。ただし、遠隔交流学習は、相手校の状況や市町村の規模などにもより、申請の方法や手順などが変わってくる可能性があるため、「連絡系統図」に示された通りに申請が進められない場合があることは留意しなければならない。

「活動アイデア」では、指導と評価の計画を例示したことで、遠隔交流学習を単発的な交流会ではなく、単元の学習の中に位置付けた授業として構想しやすくなったと考える。また、「活動アイデア」の中に、児童の発話例を記載したことで、交流時に児童がどのような英語を使ってやり取りや発表を行うのかというイメージを協力していただいた先生方に分かりやすく示すことができるようになったと考える。

今回、授業を実践した教師や授業を参観した教師の多くは、初めて遠隔交流学習を経験した。児童が楽しそうに会話している様子や生き生きと学習活動に取り組んでいる様子を見て、自身の授業でもやってみたいと感じてくれた教師が多くいた。遠隔交流学習は、児童の学習意欲を高めることができるので、「遠隔交流学習パッケージ」が多くの小学校で活用されることを願っている。

VI 研究のまとめ

1 成果

- 遠隔交流学習は、多様な人とのコミュニケーション活動を創出することができ、目的・場面・状況のある単元の課題が設定しやすくなった。
- 伝え合う必要感が生まれ、児童が進んでコミュニケーション活動に取り組み、自分の気持ちや考えを伝える喜びを実感させることができた。

2 課題

- 遠隔交流学習では、対面で交流するよりも相手の反応などが分かりづらいので、普段以上にリアクションや相手の理解度を確認しながら交流することを意識させる必要がある。
- 遠隔交流学習では、児童は普段の授業以上に緊張感を抱くので、1回だけの実施ではなく継続的に

っていく必要がある。

Ⅶ 提言

- 遠隔交流学习では、教室にいながら日本全国の人たちや海外の人たちとも交流することが可能であり、対面での交流に比べ、多様な人たちと交流ができる。
- 多様な人と交流することで、自分の気持ちや考えを伝え合う楽しさや喜びを見童に実感させることができるので、遠隔交流学习を継続的に取り入れることが必要と考える。

<参考文献>

- 1) 文部科学省 (2018) 『小学校学習指導要領解説 外国語活動・外国語編』
- 2) 文部科学省 (2020) 『各教科等の指導におけるICTの効果的な活用に関する参考資料』
- 3) 文部科学省 (2020) 『外国語の指導におけるICTの活用について』
- 4) 群馬県教育委員会 (2019) 『はばたく群馬の指導プランⅡ』
- 5) 文部科学省 (2019) 『遠隔教育システム活用ガイドブック 第1版』
- 6) 文部科学省 (2020) 『遠隔教育システム活用ガイドブック 第2版』
- 7) 文部科学省 (2021) 『遠隔教育システム活用ガイドブック 第3版』

<担当指導主事>

柳川 祥恵 道上 行彦